

Overview: キリストを私たちの全焼のささげ物、穀物のささげ物、罪のためのささげ物、違反のためのささげ物として享受することの結果は、キリストを平安のささげ物として享受することです。私たちはあらゆることにおいて、私たちの要望を「神に」知らせ、神と語り、神と相談する必要があります。この秘訣を知らない人は、キリストを生きることを難しいことと考えます。実は、あなたは絶えず主と語ることを訓練する必要があります。祈りの中で神と交わることは、神の平安(すなわち、平安としての神)が、私たちの中へと注入されて、私たちの享受となり、私たちを苦悩に対抗させ、思い煩いに対する解毒剤となるということです。私たちは、どのようにしてパイタルグループの召会生活を持つかの秘訣を学ぶ必要があります。召会生活は、宴席の家、すなわち、キリストを平安のささげ物とする宴席です。ここにおいて、キリストと彼を愛する者たちは、安息と満足を持つことができます。私たちが日常生活の中で、また召会生活の中で、キリストを私たちの平安のささげ物として享受することは、新エルサレムにおいて究極的に完成し、究極の平安のささげ物となります。

II. キリストは、神と神の民との間の平安であって、それは彼らが交わりの中で共に享受するためです: A. 平安のささげ物をささげた人は、そのささげ物の頭の上に手を置かなければなりません。これは、ささげる者とささげ物との結合と一体化を表徴します。私たちがキリストとの交わりは、一体化という事柄、すなわち、私たちが彼になり、彼が私たちになるという事柄です。 B. 平安のささげ物は、ルカ第15章23節から24節において、受け入れる父である神と、戻ってきた放蕩息子である罪人との間の、平安に満ちた享受である肥えた子牛によって描写されています。 C. 私たちは、キリストを平安のささげ物として享受する秘訣を学ぶ必要があります。この平安のささげ物は、神の平安であって、人知をはるかに超えています: 1. 私たちは、どのような環境においても、どのような事柄においても、どのようにしてキリストを命とするか、どのようにしてキリストを生きるか、どのようにしてキリストを大きく表現するか、どのようにしてキリストを獲得するかを秘訣を学ばなければなりません: a. 私たちはあらゆることにおいて、私たちの要望を「神に」知らせ、神と語り、神と相談する必要があります。 b. 「この秘訣を知らない人は、キリストを生きることを難しいことと考えます。実は、あなたは絶えず主と語ることを訓練する必要があります。そうすれば、あなたは自然にキリストを生きるようになります。 c. 祈りの中で神と交わることは、神の平安(すなわち、平安としての神)が、私たちの中へと注入されて、私たちの享受となり、私たちを苦悩に対抗させ、思い煩いに対する解毒剤となるということです。それによって、キリストが私たちの謙虚溫柔さであることを、すべての人に知らせることができます:』 (1) 私たちは祈りの中で神との交わりを通して、主を平安の川として、また慰める母として享受します。 (2) 私たちは祈りの中で神との交わりを通して、主を、風を避ける避け所、暴風を避けるおおい、乾いた所にある水の流れ、荒廃した地にある大きな岩の影として享受します。 2. ピリ第4章5節から9節にある私たちが経験するキリストの美德は、平安としてのキリストを生きる生活の表現です: a. パウロは、謙虚溫柔さと、思い煩いがないことを、キリストを生きる生活の表現の最初の二つの面であると考えます。 b. サタンからやって来る思い煩いは、人の生活の総合計であり、キリストを生きる信者の生活を妨げます。神からやって来る謙虚溫柔さは、キリストを生きる生活の総合計です。両者は完全に相反します。

I. キリストを私たちの全焼のささげ物、穀物のささげ物、罪のためのささげ物、違反のためのささげ物として享受することの結果は、キリストを平安のささげ物として享受することです: A. 私たちは自分の努力によって平安を持つべきではありません。私たちが自分で平安を持つべきです。 B. 私たちは自分で平安を持つべきです。 C. 私たちは今日、キリストを享受するべきであって、昨日や明日については忘れるべきです。』

3. 「あなたがたの謙虚溫柔さを、すべての人に知らせなさい。主は近いのです(ピリ4:5): a. 謙虚溫柔さは、人を取り扱うことにおいて理にかなっていること、思いやりがあること、考慮があることであり、合法的な権利を要求することにおいて厳格でないことです。謙虚溫柔さが意味することは、私たちが容易に満足することであり、私たちの得るべきものより少ないものにも満足することです。 b. クリスチャンの経験によれば、謙虚溫柔さは、すべてを含むものです。なぜなら、それはクリスチャンのすべての美德を含んでいるからです: (1) 謙虚溫柔さは、愛、忍耐、慈愛、へりくだり、同情、思いやりがあること、服従、進んで服することを含んでいます。もし私たちがそのようなすべてを含む美德を持つなら、義と聖も持ちます。』 (2) 謙虚溫柔さはまた、自制、中庸、温和、理解すること、同情、知恵、あわれみ、平和、主を仰ぎ望むこと、さらには主がすべての事において主権を持っていることを認める美德さえも含んでいます。 c. 謙虚溫柔な人は、常に適応する人であり、その人の行為は常に適切なものです。 d. もし私たちが謙虚溫柔であるなら、知恵と能力を持ち、他の人たちに彼らの必要とするものを供給するでしょう。私たちがまた、彼らに対して何を言うべきか、またいつ言うべきかについての十分な知識も持つでしょう。 e. 謙虚溫柔であることは、私たちの行なう事や言う事によって他の人たちがどのような影響を受けるかを考慮することです。 f. 謙虚溫柔さは、すべてを含む美德であり、キリストご自身でもあります。キリストは謙虚溫柔さですから、パウロにとって生きることは、謙虚溫柔さでした: (1) 私たちの謙虚溫柔さを、すべての人に知らせることは、私たちが生き、また大きく表現するキリストを、すべての人に知らせることです。彼は、私たちが模範とする、また目標として追い求める方です。 (2) 主イエスだけが、謙虚溫柔さに満ちた生活をしました。今日、キリストだけが、私たちの完全な謙虚溫柔さになることができます。 (3) 私たちの謙虚溫柔さを知らせることは、すべての人性の美德の総合計としてのキリストを表現する生活をするということです。』 g. パウロは謙虚溫柔さについて語ったすぐ後に、主は近いのですと言っています: (1) 空間について言えば、主は私たちに近く、助ける用意ができています。時間について言えば、主は目前であり、すぐに来られます。 (2) 主は近いとは、おもに主が私たちと共におられることを言っています。 4. 「何事にも思い煩うことなく、あらゆることにおいて、感謝をささげることを伴う祈りと願い求めによって、あなたがたの要望を神に知らせなさい。そうすれば、人知をはるかに超えた神の平安が、あなたがたの心と思考を、キリスト・イエスの中で護衛して下さいます」(ピリ4:6-7): a. 「あらゆることにおいて」という言葉は、日ごとに私たちに起こるさまざまな多くの事を指します。 b. 祈りとは、一般的なものであり、礼拝と交わりがその本質です。願い求めとは、特別なものであり、特定の必要のためです。私たちが祈りも願い求めも、主に感謝をささげることを伴っているべきです。 c. 「神に」は、前に向かう動作を表しており、生きた結合と交流の意味があり、交わりを暗示しています。こういうわけで、ここでの「神に」の意味は、「神との交わりの中で」です。 d. 平安の神はキリストの中で、私たちの心と思考の前を巡回し、私たちが平穏で静かな状態に保ちます。正しいクリスチャン生活は、平穏、静かさ、平安、落ち着きのある生活です。キリストを生きる生活の第一の面は、静かさです。すなわち、競争、虚栄、つぶやき、論争がなく、互いの議論、争論、争いがありません。 e. 「あなたがたの謙虚溫柔さを、…知らせなさい」と「あなたがたの要望を…知らせなさい」は、平行しています(ピリ4:5-6): (1) 私たちは、あらゆる必要、あらゆる要望を神にもたらすことによって、また神と会話することによって、思い煩いを謙虚溫柔さに変えることができます。私たちがただ、自分の必要とするものを神に告げるべきです。すなわち、もし私たちに何か心配や思い煩いがあるなら、ただ神に告げるべきです。 (2) 私たちが神に知らせることは、私たちが神へと向かう動作です。そのとき、神が私たちの要望に応える前でさえ、彼の応答は、彼の分与、彼がご自身を私たちとミングリングすることです。神性と人性との実際的なミングリングは、6節に描写されている行き来によって完成されます。 f. もし私たちが思い煩いのない生活をしよとするなら、私たちが認識する必要のある事は、私たちのすべての環境が、良いものであろうと悪いものであろうと、神によって私たちに割り当てられているということです。その目的は、キリストを獲得し、キリストを生き、キリストを大きく表現するという私たちの運命を成就することです。』

I. キリストを私たちの全焼のささげ物、穀物のささげ物、罪のためのささげ物、違反のためのささげ物として享受することの結果は、キリストを平安のささげ物として享受することです: A. 私たちは自分の努力によって平安を持つべきではありません。私たちが自分で平安を持つべきです。 B. 私たちは自分で平安を持つべきです。 C. 私たちは今日、キリストを享受するべきであって、昨日や明日については忘れるべきです。』

3. 「あなたがたの謙虚溫柔さを、すべての人に知らせなさい。主は近いのです(ピリ4:5): a. 謙虚溫柔さは、人を取り扱うことにおいて理にかなっていること、思いやりがあること、考慮があることであり、合法的な権利を要求することにおいて厳格でないことです。謙虚溫柔さが意味することは、私たちが容易に満足することであり、私たちの得るべきものより少ないものにも満足することです。 b. クリスチャンの経験によれば、謙虚溫柔さは、すべてを含むものです。なぜなら、それはクリスチャンのすべての美德を含んでいるからです: (1) 謙虚溫柔さは、愛、忍耐、慈愛、へりくだり、同情、思いやりがあること、服従、進んで服することを含んでいます。もし私たちがそのようなすべてを含む美德を持つなら、義と聖も持ちます。』 (2) 謙虚溫柔さはまた、自制、中庸、温和、理解すること、同情、知恵、あわれみ、平和、主を仰ぎ望むこと、さらには主がすべての事において主権を持っていることを認める美德さえも含んでいます。 c. 謙虚溫柔な人は、常に適応する人であり、その人の行為は常に適切なものです。 d. もし私たちが謙虚溫柔であるなら、知恵と能力を持ち、他の人たちに彼らの必要とするものを供給するでしょう。私たちがまた、彼らに対して何を言うべきか、またいつ言うべきかについての十分な知識も持つでしょう。 e. 謙虚溫柔であることは、私たちの行なう事や言う事によって他の人たちがどのような影響を受けるかを考慮することです。 f. 謙虚溫柔さは、すべてを含む美德であり、キリストご自身でもあります。キリストは謙虚溫柔さですから、パウロにとって生きることは、謙虚溫柔さでした: (1) 私たちの謙虚溫柔さを、すべての人に知らせることは、私たちが生き、また大きく表現するキリストを、すべての人に知らせることです。彼は、私たちが模範とする、また目標として追い求める方です。 (2) 主イエスだけが、謙虚溫柔さに満ちた生活をしました。今日、キリストだけが、私たちの完全な謙虚溫柔さになることができます。 (3) 私たちの謙虚溫柔さを知らせることは、すべての人性の美德の総合計としてのキリストを表現する生活をするということです。』 g. パウロは謙虚溫柔さについて語ったすぐ後に、主は近いのですと言っています: (1) 空間について言えば、主は私たちに近く、助ける用意ができています。時間について言えば、主は目前であり、すぐに来られます。 (2) 主は近いとは、おもに主が私たちと共におられることを言っています。 4. 「何事にも思い煩うことなく、あらゆることにおいて、感謝をささげることを伴う祈りと願い求めによって、あなたがたの要望を神に知らせなさい。そうすれば、人知をはるかに超えた神の平安が、あなたがたの心と思考を、キリスト・イエスの中で護衛して下さいます」(ピリ4:6-7): a. 「あらゆることにおいて」という言葉は、日ごとに私たちに起こるさまざまな多くの事を指します。 b. 祈りとは、一般的なものであり、礼拝と交わりがその本質です。願い求めとは、特別なものであり、特定の必要のためです。私たちが祈りも願い求めも、主に感謝をささげることを伴っているべきです。 c. 「神に」は、前に向かう動作を表しており、生きた結合と交流の意味があり、交わりを暗示しています。こういうわけで、ここでの「神に」の意味は、「神との交わりの中で」です。 d. 平安の神はキリストの中で、私たちの心と思考の前を巡回し、私たちが平穏で静かな状態に保ちます。正しいクリスチャン生活は、平穏、静かさ、平安、落ち着きのある生活です。キリストを生きる生活の第一の面は、静かさです。すなわち、競争、虚栄、つぶやき、論争がなく、互いの議論、争論、争いがありません。 e. 「あなたがたの謙虚溫柔さを、…知らせなさい」と「あなたがたの要望を…知らせなさい」は、平行しています(ピリ4:5-6): (1) 私たちは、あらゆる必要、あらゆる要望を神にもたらすことによって、また神と会話することによって、思い煩いを謙虚溫柔さに変えることができます。私たちがただ、自分の必要とするものを神に告げるべきです。すなわち、もし私たちに何か心配や思い煩いがあるなら、ただ神に告げるべきです。 (2) 私たちが神に知らせることは、私たちが神へと向かう動作です。そのとき、神が私たちの要望に応える前でさえ、彼の応答は、彼の分与、彼がご自身を私たちとミングリングすることです。神性と人性との実際的なミングリングは、6節に描写されている行き来によって完成されます。 f. もし私たちが思い煩いのない生活をしよとするなら、私たちが認識する必要のある事は、私たちのすべての環境が、良いものであろうと悪いものであろうと、神によって私たちに割り当てられているということです。その目的は、キリストを獲得し、キリストを生き、キリストを大きく表現するという私たちの運命を成就することです。』

Ⅲ. 私たちは、どのようにしてバイタルグループの召会生活を持つかの秘訣を学ぶ必要があります。召会生活は、宴席の家、すなわち、キリストを平安のささげ物とする宴席です。ここにおいて、キリストと彼を愛する者たちは、安息と満足を持つことができます：
A. この召会生活は、復活の命によって生み出されます。B. この召会生活は、清められた罪人たちで構成されています。
C. この召会生活は、外面的には貧しく、苦悩があります。D. この召会生活は、主の臨在の中で、主と共に宴席を持つ生活です。
E. この召会生活には、兄弟よりも多くの姉妹がいます。
F. この召会生活には、マルタの機能(勤勉に主に仕えること)、ラザロの機能(復活の命について証しすること)、マリアの機能(彼女の絶対的な愛を主に注ぎ出すこと)があります。

Ⅳ. 私たちが日常生活の中で、また召会生活の中で、キリストを私たちの平安のささげ物として享受することは、新エルサレムにおいて究極的に完成し、究極の平安のささげ物となります：
A. 「エルサレム」は、「平安の土台」を意味します。
B. 新エルサレムは、三一の神が私たちの平安となること、私たちの安全となることです。
C. 新エルサレム全体が、一つの平安の実体となります。

第一日 レビ3:1 もし、だれかのささげ物が平安のささげ物の犠牲で、牛の群れから献げるのであれば、雄であれ雌であれ、傷のないものをエホバの御前に献げなければならない。
2 その人はそのささげ物の頭の上に手を置き、それを集会の天幕の入り口でほふらなければならない。そして祭司であるアロンの子たちは、その血を祭壇の上と四つの側面に振りかけなければならない。

第二日 レビ3:8 彼はそのささげ物の頭の上に手を置き、それを集会の天幕の前でほふらなければならない。そしてアロンの子たちは、その血を祭壇の上と四つの側面に振りかけなければならない。

ピリピ4:12 私は卑しくなる道を知り、また豊かになる道も知っています。あらゆる事において、またいっさいの事柄において、私は飽くことにも飢えることにも、豊かであることにも乏しくあることにも、秘訣を学びました。

第三日 イザヤ66:12 …私は彼女に川のように平安を注ぎ、…あなたがたは乳を飲み、わきに抱えられ、ひざの上であやされる。13 母が人を慰めるように、私はあなたがたを慰める。

イザヤ32:2 ひとりの人が、風を避ける避け所、暴風を避けるおおいのようになり、乾いた所にある水の流れのように、荒廃した地にある大きな岩の影のようになる。

第四日 ピリピ4:5 あなたがたの謙虚溫柔さを、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。8 最後に、兄弟たちよ、何であれ真実なこと、何であれ誉れあること、何であれ義なること、何であれ純粋なこと、何であれ愛らしいこと、何であれ好評なこと、またもし何らかの徳があり、何らかの称賛があるなら、これらのことを考慮しなさい。

第五日 ピリピ4:5 …主は近いのです。6 何事にも思い煩うことなく、あらゆることにおいて、感謝をささげることがを伴う祈りと願い求めによって、あなたがたの要望を神に知らせなさい。7 そうすれば、人知をはるかに超えた神の平安が、あなたがたの心と思考を、キリスト・イエスの中で護衛してくださいます。

コロサイ3:15 そして、キリストの平安に、あなたがたの心を裁定させなさい。この平安のためにあなたがたも、一つからだの中で召されたのです。そして感謝にあふれていなさい。

第六日 ヨハネ12:2 …人々は、イエスのために晩餐を設けた。マルタは給仕をしていた。ラザロは、イエスと共に食卓に着いていた者の一人であった。3 その時マリアは、…膏油一リトラを取って、イエスの足に塗り、…その家は、膏油の香りで満たされた。

ヨハネ20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、…イエスは来て真ん中に立ち、彼らに「平安があなたがたにあるように」と言われた。

《預言の準備》

経験①: 神に語りかけ相談することで、平安の神があなたの心を護衛する

「あなたがたの要望を神に知らせなさい」(ピリピ4:6)というパウロの言葉は、理解しやすいように見えるかもしれませんが。しかし私たちは、それを当然理解していると考えてはいけません。私は「神に」という句の学びにかなりの時間を費やしました。それはまた「神の御前に」、または「神の臨在の中で」と訳してもよいでしょう。ギリシャ語の前置詞の「プロス(pros)」はしばしば、「と共に」と訳されます。それは、ある方向の動作を示し、生ける結合と交流の意味であり、交わりを暗示します。…これは、私たちが祈って神と接触することを必要とします。

神への祈りには、礼拝と交わりの要素がなければなりません。また特別な必要のための願い求めにおいてもそうです。たとえ特別な必要がないとしても、私たちは、主を礼拝し彼との交わりを持つ日ごとの祈りの時をなおも必要とします。祈りの中で主を礼拝し、彼との交わりを持つ時、私たちは彼との交流を享受し、彼との有機的結合を実行します。

主との有機的結合を実行した結果は、神の平安が、私たちの心と思考をキリスト・イエスの中で護衛することです(ピリピ4:7)。神の平安とは実は、平安としての神であり、私たちが祈りによって彼と交わることを通して注入されます。この平安は、苦悩に対抗させ、思い煩いに対する解毒剤となるということです。…思い煩いの毒はなおも私たちの内側にありますが、私たちは解毒剤、すなわち、祈りの中で神と交わることを通して内側に注入された神の平安を持ちます。

中高生・大学生編

ピリピ4:4 主の中でいつも喜びなさい。私は繰り返して言います。喜びなさい。

6 何事にも思い煩うことなく、あらゆることにおいて、感謝をささげることが伴う祈りと願い求めによって、あなたがたの要望を神に知らせなさい。7 そうすれば、人知をはるかに超えた神の平安が、あなたがたの心と思考を、キリスト・イエスの中で護衛してくださいます。

神の平安は、人知で測ることができる範囲内の素晴らしい平安をはるかに超えています。それは、人の理解や想像をはるかに超えているので、「人知をはるかに超えた神の平安」です。中高生や大学生の皆さんには、このような平安が必要です。あなたがたには、世にあって様々な苦難があります。成績が中程度あるいは下の方の人たちは、勉強が苦手なので、テストや進学にプレッシャーを感じます。しかし、成績が優れた人にもプレッシャーがあります。それは、先生や同級生に、「あなたはできるからね」といつも言われるので、クラスで一番になることが期待されており、一番になり続けなければならないと考えるからです。ですから、すべての学生には、「人知をはるかに超えた神の平安」が必要なのです。神の平安は、あなたの心と思考を護衛し、あなたを落ち着かせ、喜びを持たせます。その結果、あなたは自分のベストを尽くすことができ、勉強において確実に前進することができます。

今あなたは、学生生活において、神の平安が必要であることがわかりました。では、どのようにして神の平安を得ることができるのでしょうか？ 神の平安を得る秘訣は何でしょうか？ それは、あなたがたの要望を神に知らせることです。祈りの中で神と交わり、神と相談してください。例えば、あなたは次のように祈ることができます、「おお主イエスよ、私は勉強が苦手で、どのように勉強したらよいのかもよくわかりません。成績はずっと下位の方です。このままでは大学に合格することができません。主イエスよ、私を助けてください。先生は勉強すればよいと言ってくださるのですが、勉強する力がありません。プレッシャーに押し潰されないように、平安の神が私を落ち着かせてください。私が自分なりにベストを尽くして、徐々に、確実に成績を上げることができますように。私は平安の神の護衛の中で、また、キリストの中で、このことができると信じます。主に感謝します。アーメン！」。また、成績優秀者であるあなたは、次のように祈ることができます、「おお主イエスよ、私はクラスで一番なので、先生、両親、またクラスメイトでさえ、私が次にまた一番になることを予想しています。私は勝手に余計なプレッシャーを与えないで欲しいのです。しかし、このことで私が神経質になりすぎないように助けてください。私には人知をはるかに超えた神の平安が必要です。私はベストを尽くす必要がありますが、平安が無ければ集中してベストを尽くすこともできません。主よ、平安の神が私の心を護衛してください。アーメン！」。

経験②: あなたの謙虚溫柔さを、すべての人に知らせる

もし私たちが謙虚溫柔であるなら、知恵と能力を持ち、他の人たちに彼らの必要とするものを供給するでしょう。私たちはまた、彼らに対して何を言うべきか、またいつ言うべきかについての十分な知識も持つでしょう。例えば、謙虚溫柔である親は、どのように、またいつ子供に話すべきかを知っています。…私たちが訓練し、人に知らせる謙虚溫柔さは、神から来ます。

ピリピ人への手紙第4章5節は言います、「あなたがたの謙虚溫柔さを、すべての人に知らせなさい」。これが意味するのは、あなたがたがすべての聖徒たちによって謙虚溫柔さの中にあるのを見いだされるべきであるということです。…第一に、私たちは謙虚溫柔であろうとするなら、理性的で公正でなければなりません。私たちは理性的で公正に事を行なわなければなりません。第二に、私たちは他の人たちのことを考慮しなければなりません。謙虚溫柔であることは、私たちの行なう事や言う事によって他の人たちがどのような影響を受けるかを考慮することです。私たちは自分の言葉が他の人たちを損なわないかどうかを考慮するべきです。私たちは他の人たちを取り扱うとき、とても思いやりがあり、厳しさを避けなければなりません。…キリストを生きても大きく表現する正常なクリスチャン生活は、人に反対することなく、常に喜び、常に謙虚溫柔であり、何の思い煩いもないでしょう。このような生活は神の平和を享受します。

謙虚溫柔さの美德はすべてを含みます。それは愛、慈愛、あわれみ、合理的なこと、適合する能力、他の多くの美德を含みます。…主イエスだけが、謙虚溫柔さに満ちた生活をされました。今日、キリストだけが、私たちの完全な謙虚溫柔さであることができます。キリストの人性の美德の総合計を総括するのに最も適切な言葉は、「謙虚溫柔さ」です。

在職青年・大学院生編

ピリピ4:5 あなたがたの謙虚溫柔さを、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。8 最後に、兄弟たちよ、何であれ真実なこと、何であれ誉れあること、何であれ義なること、何であれ純粋なこと、何であれ愛らしいこと、何であれ好評なこと、またもし何らかの徳があり、何らかの称賛があるなら、これらのことを考慮しなさい。9 またあなたがたが、私にあって学び、受け、聞き、見てきた事柄、これらの事柄を実行しなさい。そうすれば、平安の神はあなたがたと共にいてくださいます。13 私は、私を力づけてくださる方の中で、いっさいの事柄を行なうことができます。

ビジネス・パースン(特に管理職の人)は、職場環境ですべての人に謙虚溫柔さを示すことが重要です。罪人は人間性のバランスが悪いので、理にかなった、合理的で、公平な判断を下すことができません。特に日本人の管理職は、衝突する両者の間に立ち、自分が良い人であることを人に示そうとします。しかし、ここで問題なのは、衝突する両者のどちらが正しく、どちらが間違っているのか、またどの程度正しいのか、あるいは間違っているのかということ、公平に判断せずに、ただ自分が良い人に見られたいということで行動してしまうことです。そのような中間に立つ行動は、理にかなっておらず、合理的でなく、公平ではありませんので、結果的に、良い社員をつまずかせ、悪い社員を更に凶々しくさせます。そして、その部署の組織はますます混乱に陥っていき、業績を上げることは全く期待できなくなってしまいます。

あなたが会社の管理職であるなら、あなたの部下の人たちに謙虚溫柔さを示し、理にかなった、合理的で、公平な判断を下すべきです。そうすれば、あなたは会社において極めて卓越した管理者になることができます。謙虚溫柔さとは、イエスの卓越した人性であるので、あなたが職場環境で謙虚溫柔さを示すとは、実際にはキリストを生きることです。あなたは重要な判断を下すとき、あるいは日常の判断を下すときでも、次のように祈るべきです、「主イエスよ、私の判断の中で、私は謙虚溫柔さを人に知らせることができるでしょうか。私の判断は、理にかなった、合理的で、公平なものでなければ、私は実際には部下を損ない、組織を壊しているのです。私はバランスの悪い、不公平な判断を下してはいけません。正しい人は称賛され、間違っている人は警告され、正される必要があります。私は普段、公平であるべきであると言っていますが、実際の判断になると、不公平である可能性があります。私は言動不一致な人になりたくありません。イエスの卓越した人性によって、私を引き上げてください。私の職場環境で、謙虚溫柔さを上司や社長を含むすべての人に示すことができますように。アーメン！」。

信仰のストーリー

1. ここに来て、イエスのこと
はじめて聞いたとき、
言い知れぬ へいあんが
あたたかく ながれた。
くるしみを もはやわすれ
世ぞくから かい放された。
かれらのかおをみて知る、
たしかに かみ居る。
2. かれら言う、かみはわが
すくい、いのちとなる。
見たことも ないけれど
いち度ためしてみよう。
ころから かれに向かい
「おお 主イエス！」とさけびもとむ。
たぐいなき あまき名を
はじめて あじわう。
3. かい放され、あんそく得、
つみのがれ 義とされ、
主にけつ合、主はいのち、
かみに向かって 生きる。
主のなかで栄光、自由あり、
新そうぞう 主とわれいち。
これぞわが 信仰のストーリー—
たえなる あいとうた！

信的故事

1. 初次来这里，听他们在说
耶稣的事迹，未曾闻过，
但在我心坎 有新的感受，
莫名的平安 像股暖流；
我几乎忘记 来前的苦恼，
不觉已脱离 俗世的囚牢。
从他们脸上 表露的纯真，
我心暗想： 真的有神！

2. 他們且告訴，神要進我裡，
作生命、救主，若我願意；
我眼未看到，對祂又不知，
只覺得需要，不妨一試；
我就從深處 真心轉向祂，
喊哦，主耶穌！求祂來救拔。
從無一名字 如此甘又美
我享真實， 今仍回味！
3. 脫一身纏累，進入真安息，
不再有定罪，蒙神稱義，
我與主聯合，祂是我生命，
今向神活著，因信得生；
我在基督裡 榮耀又逍遙，
我與祂是一，成為神新造。
哦，這個就是 我信的故事，
美妙之至， 是愛是詩！

The Story of Faith

1. When first I came here, they spoke of Jesus,
Such things I never had heard before,
But in my heart was a new sensation,
Past explanation, such peace and warmth.
My former troubles, all but forgotten,
I left the bondage of earth unconsciously.
I saw their faces, so pure and gen'uine,
My heart said, "Truly God is here!"
2. They said God wanted to get inside me,
My life, my Savior, if I'd allow;
I'd never seen Him, I'd never known Him,
I only knew this: "I need Him now!"
So with a pure heart I turned my being,
Called, "O, Lord Jesus!" Asked Him to save me.
No other name is so sweet, so lovely;
From that day forth, so real to me!
3. No more encumb'rance, true rest I enter,
No condemnation, I'm justified,
Joined to the Savior, my life forever,
I live to God now, by faith have life;
In Christ I glory, in Christ rejoicing,
I'm one with Him, as a new creation,
This is the story of my salvation,
Such wond'rous love, such wond'rous song!

初めて主イエスに出会った時

はじめて主イエスに、
出会ったときに
ハレルヤ私の
こころのなかに
よるこびのいずみーが、
あふれてきたの
生まれて初めて 知ったあい
すべてにまさる まことのあい

補 318 頭一次的愛

當頭一次遇見了你，
我的心充滿歡喜。
哈利路亞，喜樂滿溢，
主耶穌充滿在我裡。
頭一次的愛，最甘甜的愛，
耶穌，耶穌，我的愛。
超過一切真實的愛，
竟然臨及我！
甘甜的愛，最真實的愛。
耶穌耶穌，我的愛。

From the moment I first met Thee

From the moment I first met Thee,
How my heart was filled with joy.
Hallelujah! Full joy in me,
As Thou flood me without alloy.
Oh the sweetest love is this first love;
Jesus, O Jesus my love!
Far excelling all other loves,
Such love reaches me.
Such a sweet love, such a true love—
Jesus, O Jesus my love!